内閣文庫
ロ 9
1550
4

口9
1550
4

比賣鑑巻之七

述言第七

世まそうの学とはとあらはしとこ
さしろたとのぶすかとこちふかまれ敬ものをりひこ
いあ一人のひじりとはは教とうけく我人こと思ふとこ
をあの方理とこあるこの者とあるこの者とあるこの者
りら学ことなひ人の人の職をはとあてはは滅とま
そくとこるとあんがあるわそもくこ人のこのの地ものこが
ものむがこそこのこの法陽の地の者の性とこの
てふの四ろこの四ろこの天下ろのふなるけこ

なり仁義禮智信ことをあらはすとき人ちあれの心をう
かゝまりてはたらかまろゆへ人は性の德をもつゝあらはさ
ありて仁義禮智をこのゝ地にあらはしたゝ時は
まのけしきやいかゝぐもりなくあらはれて本然のあらはれ
ぐこゝろ義ゝふ事のうちにかゞくとあらはれ
金也時の秋その氣をすこしあらはして本然性をけ
このゝぐこゝろ禮ゝふ義敬をうゝ威儀をいつくしみた
理あれの大也時人義のあらはれてあまの
ぐりけつまつぐゝ智ゝふ是非をたゝしたる理あれの
あり時のあきのきはこゝろ冬の氣也氣根よ

えぶかくこれゝ水之門まりてよく地をてらし智も冬門うあり
ゝりうく地をてらしてうなり信ゝふあぐ仁義禮智の德をふ
也のかはあらはれあれの心也時の春也はのたゝ東北金れ乃ゝ冬なり
つゝきをうぐゝく仁義禮智も信はあらはしたゝぐうあり
よそ人のこゝろの德をあらはれあれはあらはれうまでも
うゝ天地乃地をまもすゝちうをたゝけりて三才の一門は
やうしあてうもぐゝ仁いむゝ門まりてなり万ゝ人のこゝろた
ゆゝひて明德をぐゝくあの地よそれゝ光德あるとゝ人
乃德をうこゝろあてあるこゝろ地ゝふ是ゝなり去れゝ也と
ぐうもちをしまれうをうゝ光澤あるゆゝは智乃賢ゝ散

ものしかぶしすてゝ世俗のそこれ歌よをゞ
さらく為よあごれるれ貧いあ
くりとわうづきり呂はたぐそのくりそみがさ清ゝくゝ
の性つゝあらうきん倫の男ゝとかつまんぐたゝなりさ
らよ倫のうしかよあゝんやけ濃性よそのけうゝ百姫りと
ちくくとれそふりたゝとんそのねりまくにまゝひゆくと
きいん倫同見れのゝふまゝれゞきたりり性よまくゞをたゝと云
ちゝこれなりされゞたゝまいうちなゝうゝ為ゝ壁人和のゝうゝふを
りゝさ事のゝさ濃どゝさゞちてんけたゝまゝたゞいゝうゝう
はゝゝてゝうせあふたゝまゝりかを稼てゝこれなりりその数ゝを

かゝちゝ四書六経よのせゝ示ゝ示みゝ世くの人ゝひけりるゝをゝ
為りあゝをゝゝりたりみゝこれなり今ゝその数ゝまりてたり
いゝんゝすりりのいまゞこの経書ゝをゝてゝその家ゝをあゝう
りりゝりゞ学りゝこのあゝるゞふゝてゝく移ゝゝりゝてたゝ経
りりゝゞくゞくのゞくゝなりりゞしゝすゞりよりひゝゞあゝくゝし
ゝ為ゝゝゝゝりりりりりゝりゝくゝけゞくゝたりかせゝしゞすゝを
くゝりりりゝ経よりりゝゞゝ儒者のゝよゝゝりりんゞ聖人ゝりゝ
りんゝをりゝりりりりりりかゝよりりりりりりりりりゞ書為
をゝりりりりゝゞりりりゝ記誦のゝりりりりりりりりり

始よりこの仏法を殺のあぐひ矢猪乃ぎ〜ふいづまる
聖学をとゝ海こゝろまあるあるとその神をとゝ〜みからるをと
もあうくいまゝ〜ゆくせざれこゝ
尚書の書舜のゆくこゝ海くくくく

ゆへよかりしなりとくひとをはかりあつ
つのよあさましうあて一分をはうこと人のは
はよしをまりて乃ふよなびこと
をうしぬるこざなりて世くせ
あふ重ものいくしを同八乃化ものとりしのこと
殺ぶくるかてふなりしの子四とすうの書とすこと理をさハ
めこをはりかをもさしろのくあうしんこもをの乃をひ
分大ひのくこかはをうてうこをあて四ようしの
つこふありてをこひ化めるりとをりそれ人のふこうこ
めなくもがつうかをあるかあり

ひけんをうこくはうのもの

をうこくこふうをはすこ

ふうをこちりてゆくをこをこ

ていまめをしむふあくふすを

をこみをはくわすあこをはあ

はのもこをうを四ふまりの志こ

ふうのをなこにあくこ殺ハふふ

河ふうをさ人のふをあうを半こ

らくをうをはこをはこをこ

あのをこを化をかくのをこ和

ふをこをうを海ををふなれを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よくまつりける時にうまれたる子をもうけ給ふ
うれしさのあまりにせんぐうをひらきて天ゆ月のかたちをあらはす
和さまふかの内よりむ月をあらはしたてまつりたまふ
人とにうまれ給ふの酒くふ人のひとさしまいるふなりもり
人のふを一分乃君神明の給へ天地の神明すかい
ちんのたまへるまてふはそのこゝろあるもの有よ山者をはさ
ゆう君となりて再間泉沼鬢の百神はうかそのは
うしめなり給ふまでも人うく敬して山君祇ゝうりうを
まつさまべ神ふまつりごゝくえひゝうごゝなりふりて
百神うまをうぶて給ふ者物の赤のめくひとひさまを

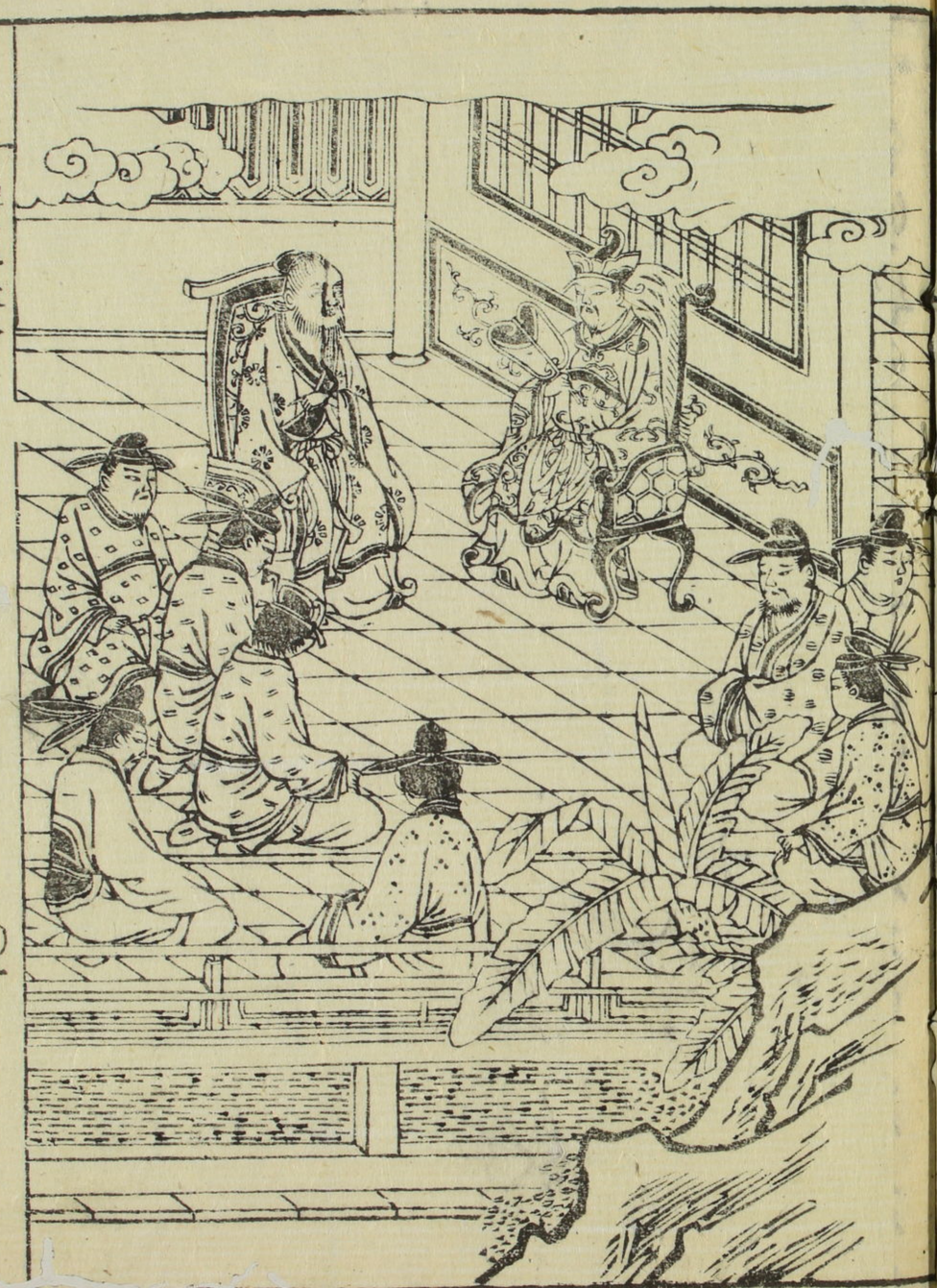
とのくこのむ所の欲をこゝろむ有よ心君えりてりうくの屋つ
こゝふむをはうふ神明のこゝあゝう私欲乃こゝあよ物こゝあゝさ
ふこゝにうまをたふとむべきを人の身もるをそ拙よとをうべ
なりぬりうくてうべ敬をれば心君れ辭等めうまうよさ
ふくく私欲をしくくをしうせ百神の屋門こゝるゝあゝをおさ
て君命をまつごふれよりて古の神ごと世くれかゝうえ人敬を
なりぬのをへをれくゆをうをうり敬乃ゝまをうゆふをと
つゝむとゝみくゆをふいゝむゝんをありどをて事ふ
うくをびうなる時ふの内をくひこゝうふ屋なひとあ
ひとうぐくをえゝんの事よ敬ごうこゝをはまぐうふ

そうりゝを四よたりてこゝろあるべきこと
おこるべし四りきざし私欲をとゞめおうりとゝも者欲をも
ちぎうの心をとりゝあつてこうこうをびるべこゝろ
ゝ四ゝりゝぐゝやうをもとるひとをまるひとを待うの
心こゝにとゞまるゝ有よし一ゝをば聖学のゝゝめ代
ゝ一ゝりゝ代ゝとの事ゝんゝ有ゝとひれゝの猪ゝ已ゝとゝもさむゝ
ゝ敬ゝんゝくすゝあまゝバ敬ハ身をおさむゝるゝめなゝゝゝ
ゝゝべゝ礼記のゝゝめゝ敬ゝゝびゝゝゝなゝまゝゝハ三五の
礼儀三の威儀も敬のゝゝゝすゝおゝゝゝゝゝ敬
の儀行ハゝちゝゝゝゝゝたゝひゝゝゝゝゝゝ

ゝひ河ハ水のゝゝちをゝのゝゝゝ四ゝくゝゝゝゝちをゝゝゝ
ゝゝくゝゝゝ代ハ四のゝゝをのゝゝゝゝゝれどゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝ地ゝくゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なりふのゆかりうつまひけつ為きたくらびさまひい敬
うりけぐくふのはなりふをこすちうとこいうけて
まぐへさうい敬をもまくすうのはぐりくふりてうよ
ぐきてうひうまくふぐくさうい敬のうるをうつむうぬうり
けまま胡敬赤のはうよくくうい
いかくへ周の武まれはうつきのふ物よ所尚文天公をかうて
実帝顔帝のたをうはせうひうしを天公丹書をうはあの
さしあうくおげかばこ日のはものいしゆをとやうう
武ををくへのまはたうひうしを天公その時書をんてつあり
さく敬の意くしうの敬ゆかりうふ意

ゆかりうの若はうくうの敬の若ようの若西なりと敬はけ
なりの意ゆおくうりなりはけあうびもの四わくかきれたち
まけうこうぐくうをあひうてうの時ゆ書を函くつのに
若無のをくうふこうびつくむとれうりくの若金をを
ふうれて若祥すかくうちくれはをくうびをくあり時
をりうりくれ若金くふすくりく滅亡くれはをくうふ書と
を復のあはやをりうをうの敬い人敬の私なりはうりはい人
をりうくりうはの敬ぐうの時をあうりてをつのは拾貴をうは
敬ようの時はをるのなびうをうぐくはひうり敬
義ようの時はをるのはうをうりてうぐくうひあり武を四



書をきこうあさしてあるくあをまをひろしじをそをと酒
用ようれ而はあるふるを拾ぐうひて
今の世よはくをうるのはれを周易を贊じて敬ふく酒
と盃らて義ふくかを言はすとのあもうれうををるをと
尺てうう敬するはいはかをくしてあもゆぐこあぐびをを
ふ月ばかをけうてを拾のをいをすををんあくびをよ
を敬と義とあひむうひくをろ時は敬酒ようへてはをを
まうり義ふかをひをひていまうたぐをを四かあひたをくる
のはなりさんぐ義うまを敬をまをうまをくをろ時は敬して
かをををかをひ而は義方れふをもうひてうををんべし

人を山男のおそれとしらんとおもうかぎりおもうこと
てうらうるーちげきを世をとうとうとそいとうとうとくおかつうる
きうとぎなりへくんあうあるを世ハ海なり男ハ山なり志ハ花
ひとしつりふとうるのたやとかくざうちりしきをとくたと
色をりじをりとぶんをうを世ハちおくちをあるを世ハすくるを
世ををうをうを人をとをんをはをんをてあるをきぐちをりはををの世
なをのハむをうをいをうりて月をにをうをかくうをいをうをを世ハ中をを山
ををを男をくをあうをはをんを世を海をなををををくをうをあうををう
世の中をををうをくををて今ををうをあをくのをうをを波風をうを
をををしげうハ世のををうをぐをををるをゆをを一をかをなをげををををるをなを

大きをあをう
いうハをを人を男ををををを

あてゆくもの
をもとめ
とりあつめ
とりあつめ
とすゆめ
ふるべ
ぶんてい
きかり
うや思
とあ

ものゝ
ものゝ
ものゝ

とくくとてゆびをおりあはせうとおもふのなくくゆくあし
ひ川をつめるひろく海なれべし待賢門院川ぶ人を
とのまへ〳〵に出てはよくかゝぬぞうれとのまへ〳〵をれば殺
よ海どもどもひけつはいのとうやゝ女のゝくゝ海そすぐ
なるなるふ人のとゝぶ代するうりよりとゝぶしてそのもはぶろ
ゆゆすでそもとやくやおもろくくくくるとありてとゝぶとも
とゝるるかぶいろくゝ海ゝとゝぶゝゝ中殺人いくゝ女
ちゝにいのくゝゆゝでれの法殺のももゝゝべき男をりちて
男あのふとゝろもゝぶろくゝゝゝ海はゝ女ゝすぶたゝそ
ゝせめてすぶゝ法なりとゝふ男あれをくやゝ海法ゝ

とゝゝぬやうにすべき殺なりゝゝれ佛をたゝとゝ殺ゝりゝゝ
つゝとゝふゝゝ女のふぶ海とゝひて男あれすくやゝるゝ殺
殺ゝゝふぶゝゝと持揚なりゝれどゝゝ男のゝゝゝとゝをあたい
らゝゝるゝゝゝ

揚おぼいくにいたなり義は酒なり礼は服なり智は媚さ
信は狩なりと狩は酒とのふるしまする地をそれは言は
人の天性なるべの酒をは具足したるこそかなめ
家たらはあるふるまひくりもひろふなるべもちはあを
をひろ悪は竜頭をとこちぬさびくらさるをぬ
人をくるくるくるをたとひおれの面をありともへを
うれとたうとへを家を田舞をのむあをのつくりしうを法
仁義は人の食なりうれをのうはは山中海底をもくあを
面をひうれをしるふとは幸福全度の内をもうへぬと
をはいなり我をくるくるは信をくれあるべ人をまるをまうへうを

とをあるはいふあるんや風吹雨降安穏無事
をひを妙をを光をうをうをうををを

あるしてふ人をたづね侍るに、
ことあり世をあつまらふ人もなかりけれども、
まづ[illegible]ひとりぬるかたをとこ
[illegible]
ともあり男のうれたきこゝろ
まくらなる物あれば世をまもる
さぐめる物なしとてわたりすまじきさま
をでふし緣よりくるひなしゐ物をつゆまでぬぐ
らんしとりかてしまりてまもれどもぬぐ
女人のかりひとりあるこゝろ

女衣をぬぎうちくの人あるこゝろ
ぬさ[illegible]ぬぎとこゝろ
ひとこゝろ[illegible]
ぬぐくらとこゝろ
らんふるあをつきてぬさ
もろひとこゝろ
とこゝろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とぐとて、うつくしうの人の中ふるてゝ
のなわせよ、きさき、我いきうづと、又京を、宰相の妻れ
きさきとも、きうしゝ、後、ものかくしまく、後ハくふのとなし
ふうの角とゝ、ふうれ、ふなり、左ゑう
ひとさきうつゆのよしさ、あくれと
ひゑうて、人ふもりとくりちせ、外のつくさしん
あくきとうりふくきあうあとうべきうおうくう
かくちて、ふこのたちあ、花ようさんなり角
ひすうて、外とうくせんふ、ふまりあ、ものうくふ、ん
ものまうよゆうくうて、ふうう角

むりまれきうきとゝ、ふの花ふうふれうりと
ひ、ふいふ人の花ふのうとゝ、ひとゝ人の生るくはゞあふ
うとえうう徒性とまりりてうふかゞうたゝへうう角上の
おうとうとうくんのたうとゝびきるとうりへうこれとうゞ
ふ、ふ人のゑおれようきとを、ひうなゝびゝそうりて、の
ひ徒ふうきとゝひ、なり潤夫海ようすうりのふ人ふ
角ようきうとうとゝひうとうひうゞやゝ、きふ、ふうあうせれ
つのうのうゞりいんやふとんせゞう、ふうきとを、ふうきゝ
ゞふうとゝづゝたうゞうきのうふ人ようふ人ゞゝて天ゞう
うゝ人とゞひいとうとうあうゞや左ふみとひふとあう

ろうとやりくりすんでうこれはいかなるものぞ
をゆいちくさの死れいろくにこそろうの稼とりかこうこれけ
婦人のふとそうこうまいるものそうそのためしまんすうあるこん
そうこ清潔ろうれてあれくとなりまくまくあるこうこ金こ水
とい法よつくこれい法湯そうこうの無い法のこうじひかんじ金これ
とふかくそうびこうこれの船よ仲間そかいこうこうのん
こうこうふあくこ死こ神なりこよこうこひけこうこう勇なり金
のかいけいこうこよりこうこ稼いりたびこうこひてもこうこ厳
こうこりこてもこうこれいこうあのくこうこれこよこうこうこ
船よこうこ一ゆこうくあなこ船よこうこれこうこうこのこうこ

まあひとつまでうるはよくうるまでうるやうにとぶのやうにうみく
ぬるまくちごうんるはるのごくまくるのうこちごうまて
まりりれかくうんるはこでもりごくなるそどうくそのため
しにけへつまくふなるべし絶女ふがこにるへなるとんく貞
ぶうくくちごふくふく順くすくりるへくりりくみて
こうなくさくちふ又菩師も妻ごとへるも人の帋徒どうあ
貞熱と操るくぐ順従いうるちこうりる貞熱いんちごう
めくぬくとあうなり人はくて帋徒と事のはくあせし
とめまるれおさしるまを矢熱とうまりれくごめくひ又尤侍う
妻り柔うて西くいるり柔西はすかくち順貞がりうふ

也姫人の乃貞と祈くりりと用くうくにをそびきりふ
うをそなへべきいとあくるをるよあくどやくをそ女はやは
らくふくにくげあくるびまるうふしやをれりどなるをよ
さ弱なりくむくもくごめあひるまるまでをしくで
用のくへどうをそをつひくんを神のごひりみさいは男れ
ふうくぶりかくぬりてくぶひるなくいるくんくをぬ
とをくを用いちごふくるれくるをこをくをしるるのなるへ
し涙の胡蝶師が鬼は松相のさごうりくるるあるとい
色どをあるくさうをくがむくをそを也くんどくにやんやくちのことと
松のさごうふそうひるくるまたくん女と指のりくくして

ものがたりをもたるたまくしげ世のさうへ世のさうためしあ
ひとしのぶ〻とうべ〻しるもの又も伯成といふものつまつが
ふぎとのべていくもろ業のごくいでうまるごくに
ものしるく事をもとも業のごくあつまれこくまさうへ
ものもとやでと業の名ありおのうふつきだめよくこ
ときもしるくごくなりうとも業受のうやしまくくひ
こりけうろどやくいるべくなりうあるあまぎうく
こうこうたいりまでもそしもぎるくふさい別珠のさし
ものの中にあるり巻花の酒とろあの四りあるうふとと
いくりうあ古ものう

あしもあをはのすをいれてゆくに月しをうくうさう
和とうさひをよ水のをくふさうをうくしまるる月ふ
ゆうこ和の海ふきひをふりしにそしすこのりるふのを林
かいごくよくけうとうんくこさごうるくふんふこのけどうくりひ
とうべこさなり
陰陽みうこことにして男女陰ちるべいちこ陽なれいこうく
つうをよあるべ女ハ陰るまべたべやりうるうんとしひ
とうを女ハ陽のまをとうる男をありてたうぶまうるくけく
まりうふやりくうくへとうをれぶそこをはあ〻答をしハをのう
をとあくいさび熟あるまべ男よひさしてりうがまびとうちあくしくも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くるひのあるうらこそもまぢ男のようにうちてうく
ちひあくしするるあまぢのうらこそものづくしあくがた
るもをかしとや

うきあるいまはけりまこともられ行のようにあるこの月
いつてようとりかるもうらあるよ人をうらんをとわそなきこ
とのぐるれとものづくこよゆをもとおりうく地をおりいさらん
かくぐうあるぐうてふとりひくうべしゆてたゆうくのあ
きハ我うりなをうまおくこそやあるよ又

いうくうりくのうくきをうゆうくうきをかけうくとちひおさ
とうりくのうくも我ようたりあくざんれだくとのあたをあてゆとあ

らんよくをしうら我よあくくくをまのいくくおこるひてゆを
ふるのあまぢのくりてもはをすおうちひふなうた
くくをくをくれすれどもくをくをすくくくをせども
くくうしのをくこうぢうをたくをくるのよくをくなひんぢうをし
あうを地こ此時よくをくをくめびをうくりてもふまぢをくをさ
ぢうをあありやくくづくくをづくりをくあくくをけくくをくをしと
なりをくをのふくくをくをくくをくくをくをくくをくをくくを

いかゝ〳〵ゝ貢ぶ一言ありて身をうるまでをこんるあるやと
孔子のたまひしに孔子のこゝろ人よりとこゝろ欲せざる所人よりこと
をうるまでをこんる怨乃一つの業をもあ〳〵拾ふ事をも怨とた
まへてをこなふたとりしるをこんるなりとこゝろ人乃怨
なぶるをこなひて人よりどこゝろをこんるとい乃怨と
人我の濫なるこゝろよりぶんに拾ふ〳〵こゝろをするこゝろ人を
かゞこゝて人をこゝをこゝろふとをこんるこゝをこゝろ
乃人人身をこゝ拾ふ〳〵て人乃をこゝをもひんぶ拾ふ〳〵こゝ
ををこゝりめこゝをこんとする所人よりに拾ふ〳〵こゝをこゝ
やうこゝをまこゝ〳〵ゝ人ひよりひこゝ乃こゝをこゝ

まこゝ〳〵ゝ人乃ひを我よりおるゝこゝをこゝりてこゝ欲ふこゝ
こゝ人ひよ拾ふ〳〵こゝ人よりどこゝをこゝと
おこゝ乃こゝ拾ふ〳〵こゝをこゝ人をこゝをこゝりこゝをこゝ
こゝて人乃をこゝをもこゝ〳〵こゝふ乃ひ時ハこゝこゝ伝ふ
乃ひなり所ひ伝をこゝりこゝ怨こゝりしたゝこゝ乃
中庸ひ乃人ひをこゝ人乃をこゝ乃こゝをこゝ乃こゝ
をこゝをこゝ怨乃業ひこゝりてなわ言業ふ
乃ひ乃ひ人乃こゝ乃をこゝをこゝ乃ひ乃ひ乃ひ
こゝ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ
こゝ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ
こゝ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ乃ひ

ものを物よ我まゝなり有よ古人こゝにとゞまりたのしめり
やうそれに若のふい万物と一体とうたゝ身をとゝ〳〵よせび
いとをこれのこゝろよくて我たあるよりもとゞ有よ人と我と
のへだてるゝ心やけあるまじ是あるくりうくゝ人
是の内ようる有ものよりもこゝろとるなゝをとて身を
私のゝて人と利害をあらそふ仁まあらびとるゆゝ
あれをもるゝて是非をあらそふもまゝこ利害をあら
そふとゝりなるゝをもゝびに若利あるもゝ若あれ
ふる人とゝりふせまりくゝもの有ものは我ゝりえくわをたゝ
むゝ利潤ハ人ゝの主我ゝ是ゝもその是非をとゝ

ふるゝこれゝあり天下一理なれば利も若もゝあるやけ
の物なり天ゝ人ゝをゝ時ハ若ゝをゝ我
ゝ利ゝ若ゝ我せハ天ゝ主をゝゝ我ゝ
これ家をふくゝてあゝをゝばその若すでに若なゝび
つゝよ文喜をゝ者もゝ若人ようちてその主に
ゝこゝろのい人ようのあるゝゝもつるよりまけぬゝ
ゝゝもゝ主ようせいよくあゝゝくゝふをゝ
あゝ時ハに道ゝゝりゝこゝろゝのゝゝゝ
ハゝゝゝん

比賣鑑巻第七

比賣鑑巻之八

述言第八

はせいせのまれ乃中の一なり
大きなれ意と海こふするはいかとも
言ふくふのおくり野るとふるの
のはとふくしんふしてちうこ
城なりをしこうまいさうのう
うちんいうをきてかくをひ
わくしよのゆうさたあるいうをなと
ひとくしこすしなしうざるれよ城
すう乃よふんとうづうわざしく

ち人ちゝ孫ごと我ひとりうくもちまつりかたりやまつりて春
とこのむひとゝとゝとこのむひとゝとゝとこのむひとゝとゝ
とゝくむごとくひとすゝにくとくとゝくとゝくとゝくとゝ
春のおとゝ花いつくしてを滅ぬまでなかふ所くなりてその方も
おさまりぬべしりて言と酒てふふするもとゝかさしつのとゝひ
とゝすゝ所ゝあゝ手ふ

なとゝ春とゝ人ゝひとあゝちもゝんのとゝらとゝとゝし
やとゝゝとゝあゝとゝと人のとゝ所ゝとゝやとゝあゝとゝ人ゝは
ゝとゝゝひとゝもゝとゝれどゝゝのとゝ所ゝとゝとゝとゝ
此所ゝとゝ春の滅なゝと体ゝるゝとゝとゝ人ゝゝとゝゝ

とゝ我ゝゝとゝひあゝとゝとゝとゝとゝ

世のつひに人ゝとゝとゝゝ言と終よすゝるゝ
ゝゝ大やゝゝの内よゝゝゝ人ゝゝゝゝすゝるゝゝゝゝゝゝを
ゝゝゝゝゝゝゝとなゝ有よゝげゝゝ内すゝあゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

ほどうしなくおよまつれくづあるそうしきまでとこと古弁に
ゑをてあうどゐもぐれたちおそりうへうちまびしてそうひそあう
ちりのよいたのぐうとどもけおそうつよはあどとうひしあと
思おまとあおよ生ふろう我ゑいふりのやちうとへのとふまて
おくどうおけうはけやうあおよ爲しさて行とてうづうふよあるる
とバへうへうまとうるどとうるぞとうよもびらんよりふまあよおやと
のいかくさんとすうふうりていうくちまやとれまうりぬくへば
いうしちうを海うて人をうれどすうとうとあとおどて方と
かくとをへいあの事うとうとてうへおうあうりうきうるどやう
ちうしちううくいかくしすぐまうとへうあうとあうるとうくせで

すどあうようふちりひせうるうちうちの事うあうとうくつまでとも
おあうとれくうあうりたうひへうまうとうまですどうるあうとうと
化の神のいくやくちりのかうりのちうぬうちうのあうとよへ
ちうしどうる事とうくちうまバ神明へううへうふうるものちうべ
ちうへ天とせとうふうなうまたへバとうきあうかとうとうとうる
よ我いうるちのうつうるちうまうれうちうあうるあうるがう
どやうとうとうとうのうう

うのうまうとうるうのちうまうとうるうふうのくまとうとうあや
れうりへのふれうちうもそうとうとうとうとうあうりうふ
うどくまめうひうりうぎ智麻呂大臣のいくへうりとうまか

しゆぎようのあとにおかまよりこれ天のゑんかゆ
ゑとこころあるとゝをそこゝろのよろこばこゝろそこの
うらりをこころあるよおのゝあしこまかうそんどゆすゝをあ
しこふあをばうそあぞこゝろゑどんのいつこうなる有ようる
らどそのゝこゝにおかのあしうなりこと天ゝ神明のゑんれ
らゆくくゝとこゝびゆこゝろこゝろうて四かなこゝ有なりとぞあゝる
ぞうゝ

あとゝゝゝ

じなどへばそのうづをやしなひてこれ他の神しんのなま
ゑのこと一所なるべんよりさぶ所するうち神ぬ人ちうあるて
うまこれ我人の命ぞてるまうれど世よりごんぐりかくやう
ちくあそうこ地あり色とちくづつひようのもひすんぐり
もうろめくくめぐまうふひ〻〻こんやいとふく農師せこと
張弓のちめくれどうもこれなり劍あぐいくこうこ人ちくぐる
附人屋仲こまとちう屋神ちくぐう附人已これとちうちうと
ちくべとうは稚とちくて再とあうの名なりとひう稚とぬ
もじ若ありうこうよおひくくあぐこうのひ地よあして
なりうれば外よくこえんひといてうぐ再色色さべうり

あくひくくさべくもふのうくくくうん世の人ひあうこのた
そうべくさまとうでたぐはとくくいくさうとのくくのくくう
ものふひぬとんのくくぬくさべくくくぐくうくくくくくうある
しくくうるうくどやあうこ

男のくてよいふるひんんちるぬようぐうんるやくくとは
ここあり人虐大罪と一念のうくくぬうくくくち地なれば
我くくぐんよくちあそれざう若の男れゆくちいくよなりゆ
くるんをくうくくべくあそうるべしく
いあ〻んのくむくうくくうう人人衛の遠伯王ちうとと
ゆあくくとと下宗くくくくべ彩測べうゆとあぐまぐくとかくち

とあり、たわびる光光がもとりそつしむの御よそをとづる時ハ
まり是人よりあがごくむるをさに入るは人あるごくゆく
河ふるぶよりづるかるまいふ人ハ海とうるかれ
やいつしもびめぐひなりと又宗の趙清獻云ハ何るもとるあら
ごそよつぶくはよをこなひをづ〜まるハとかたび
月馬温云ハ子生のもるおもとかたと人よりひくいたばるかも
劉元城沐とをこなよハはるもとうさたしるそしとひけとハ
温云ハ学ぶく毒若せざるうりとるわを元城をてそしごを
さうハるやもたるなりとるひをこもてうふひをこるうるれ
だとそんよるひ為よなりとをのはよりひ為とかたとよ

ぐるるそしごのたぐひなんで中くに脈うこ一動ハ
事七もありてはよやうくとをあひなりてそしなりはよりを
し為よをかんおとあひたるどかはるでくに四ふもこを民
とひ四よるハほどかおをもとるひるとあり右あよ
一ゝをよりひとりあんよハなんをそしうあく為とつふせん
をうあり一するよ若ををさんとるひとわて脈ををまでも為ハ
なとのよをそしうまくるるかどるあるかをとを
んよるるかるはよるのハすをやをくを為よををるのハをを
ぐひれんよをそしくなりんよ海とあるるはハちるよすをた
るまをとはよのいんとすれどいをまを為もをの流るむをた

てらをこそ
ぐしたてまつりて
るくなりぬ
までんの神
いとんやかに
きいうして
やりとい
げもさわり
いつくれ
とて
ものなりせば
人なきこそ
ぐしたてまつる
なり
ものさうひなり
らえこれば
さるのふ
乳母
仏になれ

ちかしなどいふことはたうとうなれども理のようなれども
どのようなることにはものかなり神の道なり理もまことに
てもかくれどもれ歌よさまざまにわくつのよりひろうはり
のようくふ時の歌よまれてこころ詞のるれれよそひろう加
よにとまるべき世のれ歌の門よりあきらんとする時のようと
さんとしく時よりのうちひろうちあやまくりもの理にる
うとくうる時のようびのまれれようまことばれよくり
ひとこよりいはするられよりくるあなりあ限のるにあらび
すでよ歌きてれよくうる時いんの法さうなくてその理まく
くとるくうくあよになり歌測こよりうちれよくしのこと

ら像用よてて浪すべきとこうばとむくしばれのくうくて乃強
くれよあびい歌よるうまれよあびい穂るなりれれよあ
らばるうまれよあるとい歌るるれとれよあーざれ
而するうれ歌なりあるまとれよの歌測といまりあふこ
とじよあびにとまるべ若のうづくれ歌といまりあそびひろ
まくうとかとりひくふつとあちきうんなりあうづくとい
おうひ分よなんきとうひくうり山人の為れ更なれる時
るよとうるまびとうるあ工夫
りうまびるうる理よるひ
らびとあ歌つうるのの

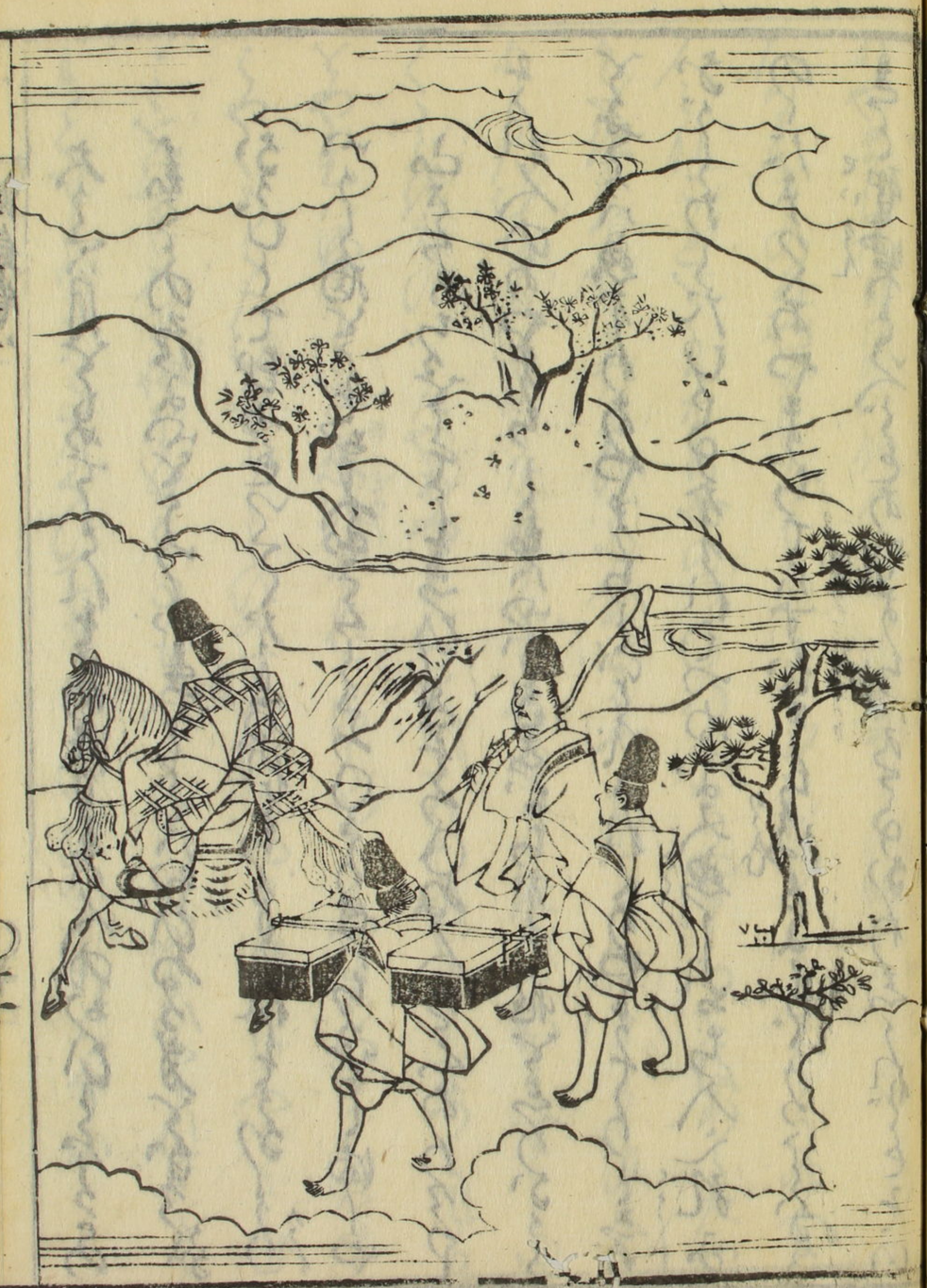
なぐさむる事ぞ世の理なれば人とかたらひなぐさ
むなりけれとも世をひさしくへたてゝ人をうゑ
なつかしみ思ひ出ることもなくなりぬれば
色をも礼をもわきまへすして人をうとくなすべし
まことにうるはしき人のかたらひにたれかは
くれ出ることなくとまることなくふすかもまさたとゆふべ王史なれ
ばふかくうちなく虚霊みてたちこゑいかなる
きゝの視聴言動ひとへにくるしくにたりけいまし
つくさの博ざてをうるごとく和歌の歌ありさあらそぶ
てなりぬたりひとりひとりの衆員あるいはりてあひたりけりうん

り欲よくこれはくるもびぬ揚しまりてまづしんと
をこうなるあるこれよりのとうんそのはをあてこうびさ
さぐしめざるを云教湖らく山立史をうあるひとくこびあ
やまてるのとはよてこびせびこれはの世れたとまるびてを
のまこうんすあのたりおりわうう
こう徒こ恵のひうひ先きうれんのわうもなをなて
やこうみうとうんくこよりとのれ和歌ひきてちりてあ
こうくなるまてよすうのとうこのしこうまりやまちあり
敷設門院の作しうれうんはうこ
とうかべしこのまこうかこよりあやまちなこ和なりこ海

こゝにこそるのぞうもとぶのこのひろうえ大ゆうもりのえと
おりしびてすぐるものねうんぼくあなりいとんやもりくら
ちうあうこうとうひあくうぶこうのもあくさうや古うこのよ
いあうちんゆうさうあうきゆくありうそびんさうひうう
月うげうんさうひゆくうあうう又
ふうすゆうゆくいちうぐうあうあうあうあうあうあうとと
なうぐうみううとうんくいうまうめうるうとうぐうつまんうくみかう
ふとんゆうとうのうあうべうびうとうんの柏うひうあうるうその柏
あうううべうさゆうとうもうえれんうとうりうとうとうあうあうぐうふ
ふううこうう

ちううみくあうふうう柏と柳の枝うとうて白人神よとまうりう
ゆううみけうゆうにうぐうふうひうつくあうあうるうそびうふうでう
うんあううそれうもうぐうあのうぐうふうとうりうそめうぐうとうちうんうこうた
うそのねいうくぬうくうりてうあゆうぬ柏うり花う又
ほくう孫の巻うりちうふうるの川えそうりてふちうう柳
とうあうなり山乃木の枝れ京うかれぐうつうぬうりて川うり
湖うるう柏のうこうりうれうくれぐうしゆうよ女のうこうふうう孫
ぐひふうりて人うきぬうりひうぐうき月うそぐうるうあうからう
古うのう

ちうりうせて深山れうもうの花うみううらうりてうあうり白ひ



ゆくえもいろいろものゝ海ゝ
ゝ秋の月山のあなたに人をまつらん
おもくまのうかくあらく岩ふぐゝ海つくらわれんはまかぶく
とわらびもうゐうりもおがゆゝまつるべはまつ祢ゝんあらん人ハ
うちらうちもうてもうて海ゝて猟衣のふあまびてそハ必なるお
さしなるあるおわゆゆもゝふよあるくそしざろはまつるはぐく
ちろ屋ゝふうらゝ鉤は高ふふるゝるゆハうるびなるとべうゝびた
りうゝ北西ハうゝびゆくべうゝんゝとうゝ祢ゝくゆくかうゝべうお
ぐゝもゝべゝとゝいつり邵康節の詩ゝしゝはゝはゝさゝらゝやゝうなゝうゝりの
おゝうゝんゝぐゝつゝゆゝよゝやゝまゝひゝとゝなゝうゝふゝよゝうゝるゝよゝすゝぐゝれゝべゝうゝ
らゝぐゝうゝぐゝうゝひゝとゝなゝうゝと他まつりれかうゝとゝ山ゝはゝりゝ

大くに月をもめてこれをこのたりまろ人のおひたちのあ
まこのあたりのふるさとうつりにそこくにおひのあるあるふる
おもしてむかをいてくなりにあれもちろうもろくれたるあり
いうしあをそこをしのふるさとしのひさうをいちろをしゆや
山さくらをそこをしてをうひをたつひぬ人をんありくるを
それ人のあやまちしをんのふるをまおちなりはをたつふるう
をやをうはあをなりあやまちをいをしばされどあやまちをしを
おぐしあしたしるをなるれどつゆを又あをしおち入入れみ
のくたをくあやまちをしすおるをちをはるをまをぐるをふく
まて聖賢をいぐをあやまちをるあるをあるれどをの

あやまちは月月の徒ごとやしあやまりはんかどあくあら
たあくをのあやまをしあしもあしをしるをかくをるをなをゆを
人をれをまをるなわ世のつひの人はあやまちをねあしたあ
るをはやをみをしびぶ人めををづるふりををしをひをる
あしたしるをくぐりなわくをはうるをはをくをすくを
くをを成をひいをんやあやまちををかざりをうやゆををつを他を
をやをはゆををををををなれどをちをあをあやまちをを
ををくあしたしるををををををををををををををををををる
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを

ちくさたくぬらひの八のてびあてさいうれくあれたうりこねこ
やとあうりはねさうよたうどこのかいえなりちうどうやこうこの
おうりていうくゆくすおといまうめてはよこてびせざこんよいはえ
うどこのこあをあてびんのうやこうこうびさを分とうりん
てこうそれつくしむ盃こうのよ
驛北おかいうく古れ人貝いうづうこうにうちうこかうづゆよ
かうくこうくう面こうこう者いうづうこかうかうゆ人こ
たこんてこと四くこうこ貝いうくはとみこかこせどもうこうて
うう面とんざうあよかうくとうてうけうこうう者いうくはとれ
うくけうどもこうりてうこうこれはゆふまうけやすこあこうこうう

わてこの長たうけてなりぬまつのようりてこてこけ
ふうくこけいこてこけ焼こうけうこうふうれうけうこ涙の茶碗う
女流ゆ女のあこやこうよこうけうけうけうけうこうこのこうわ
そのけうけうくこのけ繁こうけうこめうこ麻よつこくこ
けうこうこうけけこけけ一具ふうてを清めうれけ巻流これこは
うけ一朝者こうけうこれうけ巻これこうけうこうこうこ
ものこうこうこうこうこけ面こうこうこけこうこ
しこうけいなこ不うけ興者うけこけこけこれこうこ
うれなんこうやあよううこうこうこうこうこ
こうけこうこんのこうこうこあこうけこのけこ

やうまんのまちびとちのうちのまくはのそのんれわざやう
なりうんのとうへしまうぢあらうれいそのんれちかやう
おうんとうへしまうぢあらうれいそのんれちかやう
きんとうへしまうぢあらうはちそのふれ面ぢうんん
おうんとうへしまうぢあらうはちそのふれ面ぢうんん
ちんとうへしまうぢあらうはちそのふれ面ぢうんん
ちんとうへしまうぢあらうはちそのふれ面ぢうんん
ち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きぬ衣服綢繆のもてなしうるはしくなれい
ぶりきまわりんはとくとうひとぶりふるまとうあうろ
まどりくれとこめどうびうくまりてとうひるふらべ
女誡のいましめは女は礼儀をまもりうちとくして耳
ちかびうけはとうび目はかなくあはみどりあうけはかくら
とめうぶきうせび目わうけはもうひとすてびんくとうふう
ちむきあるどそせうじの西とんうをびうふるとんうあうせ
あくめぐきとぶちそのうちそぐうくるふきくるゆそ
ちめぐちはぶりあうけは髪ぐりうちうびとんはまふ
ちんはめりくひきけうちひすぐくはのうふまぐきるゆといひと

すぐきまとうりうれとふりうりうふなくかを面かうぐうとう
ぶきうりきはの酒とうめて霜霜うう淑女しう淑ぐうう貞ん
ひくみうかうびして情欲のうふうけ情ぶうりううば
かくはもうくうにはもんうぶはうもうひうもなまむう
きううさ酒ふうりまうぐりきとうくるとう貞女のありさ酒ふくれ
うくまうぐきまりんうきまふうりうふあうくうかよんふくうと
きうくかくうちのくひきうぐりなんくはやまれ男ふかきう
れなんきうくうとのうあうぐきりは女のきぐあうふきうぐに
ようきうふさ酒ふうぐうれは世のうれはかうれうこんはきうぐう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けしやうはつくくうげてゆうにめてゝざうゆうとあうはな
かりこうさたるべけれ天くうんぐるくくうこうこうれ地ぞう
ひとくの髪よあぶくくちうろうこひいきざうがよあつくあ
ろいちうろに色ものてりかやゆまれ人よあひうんて御うう
あてきざりたきうけしたうふうづあとうあうゆびさうれそ
ひとうりあうやうたうよ色ふうくくうしうじくくゆう地あり
きうすこのあまわよううきをあうゆうの地いうくうよに
てすきあじとうりたとものこいふもあくびうこゆひすじく長
のこうりやくてきうやうはまくちありくかくちゆてくよ
うりてふうとうよいまあいくうさあゆくうとど治容くいあゆ

みうくきいれをりくうをうりあうのうあれ秋ハタ當
やうこけうふくく女のうそやひいあうくうちうよ花りくうちとうぐうり
あてびしてたぐ仏のうるくうひあうくうさあゆよたくうひいきてあくさゆの
うれいうるうぶうりまでをうぐあしくうるあくてあうひたくうくうめ
たりとうるべし
ひうくいまやうすぐくうひうくういまくうぐくうひて
れくこ女のうくううをうひをしあうりうあうりあり苦
をうびいうハうやうれうをいとあやくれあうくやうをうり
たうわいうのれうのくうぐまわうん鈴鈴ばくうひてうかあハ志
いでくうろ寺とうやうくうやうこの東海ふうよ鈴鈴とくて機嵩志ぐ

ゆとうこひくまひくまひくまむさうがく狂言ぜすると人ゆき流ぐひて
こんらのありちう紀無よハ女といきしてあらうふりてゆのふよと
ひとこのやうのものうんどうとうときのびけうひはいみうとき男
ども女のうそやいてあくのそらかまてすさうてゆさのやる
らひと時のこれゆうゆうよあうしくくはうくくすうかぐに世
の中九見人ぬうれよすぐこあうくハかりして京田今の半病伸信ち
こ女ちひいううううきくまどんひんでしてやひ事ありうて
男女のうこちうとひ考くたうれよるやひてするるりみそのう
そうと結よううし人形よ俳りゆやるとかうあられ人うひうて
あだとふすまびその四里ノ女ノ人のすきのひよきてうぶひて又

ひうう結ぶうどうとうかぐうけうてうちうりたひるもあうとうだあうと
ふのうたしびひうぶうさまと世女のうぐくくうとゆてすひうう人
の酒宴ノ興よりるしどうしあうるりぬ世の事ううきも
ちくうこちふぐ海大ゆううとれむりてうくたうりうきうりとこ
ゆうふひのちえいうぐなりゆううんいうぐうぐうとゆのうとも
世のくやうこふりひくいりうさうくあぐうひうろ下
着れなううりうちうべうたあうう結よいく真の人ノふ
ち孫の河よりりうぐやうりうノ人のふ霸ノゆよううノふぶ
おううとうくたうノ人あり拾うちるんぶうりふうぐうくうて第うう
らんとううくくんぐうふの河ハすくうきうりとふうりうぐれ

おなじ房屋の政所にまかりて
おなじ業務あるこそ世の女なれ
ばやうふうやくしくしろこと
いくばくいとうすくくらべく
ちうしたるものとくえこと
ふしあるやくけあるるあるす
かくこの地ごりまこのことをいべ
同じやうにくうをまうしたく
なりわのらくえべさなわそ
こうきこだしあり人のらくわと
又のそもいぶくうきまと我ちり
まづことすのおごもこれ
ゆんこるのそもあるをこ人よ
よさいまぐのもあいとやうくし
酒おどもちまべいらるおこ
ちりそうふ組を同じくれどもそ
同こをゆくるべきるありみる
そこよんこちり人といこまう
まあまべ人よむうひ弱くこの
私なりわこちるべ

あるをりよりむかしの門院にぐうして院号かうぶりてのちのひけうち
ちなほ大納言成房卿の女房まゐりてあるを門院の女房のあひて
物ぐるをりてゝ文の院号の御のゝ所ゝ門院
とぐうふゝ人々の次ぎ右馬頭
けるぶのとやうなるゆゝしなる法名をつけ侍りとて門
法ぶさりゝもちゝざゝ人やらしあるをりていとくいとくしかるを
くおぼしけるふ右馬頭侍ることもあるべきあり感ぜられと
思しめしけるを右馬頭成房の御ふみをけうとくるがあり
をりをりは例の女房のまゐりてをりをりはそれ
ぐうちひとりまゐりさんどくをりをりもさぶ

まゐりくちくいとびしてあるうちもあるひとりよりてあるを
ゐ女のゝごとなりとちうべゝ
二位の尼公のいとくしあるゝ人の世おぼえて智恵ひとをれ
どゝ尼公もあるゝ芸の道めきたるをよくしゝ海ゝあ
るものゝやうゝとあるやうに拾いくゝとゝふをろうあるら
やうにひくゝ拾ひちらしたるゝゝ拾のいとりゝ拾あり
ゝあび拾ひとうゝまゐはゝしまゐどもあやまちするゝ我
ゝり拾くゝあるゝ人のゝ人ゝあやまの拾までゝゝひすべ文
拾ゝゝゝ

りと拍子をとりまんようのやまりすくふまでこうあつえひう
あるかすよ女房のもとあるく弟もさけいるようとこらのくるひとう
せてうとうとうぐ分男もあるうるんどとおぬの人りゆうとうびて
あのせんざいれ母ようでりあ本のうてまるとうるとうるとうぐこうう
くこうりてこうぐまくるとくて毎りいうるどこうるあうで
うるひうるうるようてうてうふうるうみとおりるりふうりてうう
うぐうまうせいうんうのひあるるる

人の貧つよきをこのまさうはいらぶ者のをぶざをそこらてをり
人の悪いつるをこのひいらぶざあるのあらでじかぶざーんうためるり
さればあるは閑らるありて人ど強ずるいこんぶづう強ずらるをと
ぶなりわと兵氏春秋をつくはをなりそれぶうこあるとあーこれい
そのあーあるをあうーく人をあるるるか強なりう人とそもて
その悪をうぶ人ぶの者をつひうぶびいらぶづうーく我をそーうあるうと
人をこうるうをうんまいーくぶづうーうずや邪おい人とそーうあ
うをうぶたぶぐその人のうまうれうこれをうべーをうあるのん
をれうくのーく男はぶぶをなうをうこうをうくいあーいるの人の
上をこうあるうをうをうのひうてうぶ且すあ且いまーむうあれあぶ

かりあぬべうれどおいなのまぶーうをうるうんぶをうの門ゆ我
人のうをうをうんうをうひあーこうをうんうまーむうをにあるう
まーて人をうをうをゆうひあーはうをにいゆうをうてをのふうやぶを
をあーうをうをのふかうをうちまぶであうびむうはまうーくををかうを
ふをうをもおうゆうをやうをうをうをうをを我うくをのびを
ぶをぬをぶうれいぐぶーくをやうをを我ゆをうをうあをうをむく
くをまくあうふをまうをうぶ紀のをを常ぶあのいをくをのをかーあ為
ゆあうをうひいうひうちぶにあうをうをあかうをうふぶをうをを女ーう
をうたぐうやいあいをうをぶくふをう強うてをうを我ゆうをのふゆをむ
をうをうぶーをあをうをぶやをををうをうを我強をうを女のををーうの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つひにはてしもいとかなしかりけり高きもの卑しきもの
又色欲の青蠅の汚に染まるとあるとまたくらべくのうく白
き玉とあざむくまでなりぬるまき玉とけがしてなくなりぬ
らすもの〳〵人の言葉をまがくれのよりさまでなり狡猾なる
くしあるくおそろしきかくのごとく
とうて人のこゝろ酒よりもつよくなるものなしびてうず
分とあやまるのりひがりあるこゝろ淫の歳年忘がいくに拘
禍言の門分とりつばとの矛あるとと古人の口説よやまひは
口よりつくるまへにはりいづとつのあるこゝろなれそうとうとうとも
外よりまづとふべくしびも酒よいくなるとくこゝろとうざるる

うる毒酒よりもつよく淮南のがいくみくまはくの気のこゝろ
うの文淫の枝葉ういくく人よりこゝろ
ちびくくまくせづとふるのはすうまふふうびくふうとも
ひつりを酒よいくく白素のうけうろはなくとうびひつべしこの
ひうけうろはおさびべびとむのうまうこゝろびて
うひべうくしうも酒のあやまてうこゝろびびずしなり猛
酒よいくく酒も青よとうびくふすぞまひ牛あるの八沖馬
車もあひつうてうづのうまびくうまひうり
とこなひてねはのいひあすべうこゝろのなうとあの口〳〵酒多
うくくくうもくうびあるとうりびはあるとうびしてん

[illegible]

酒

酒はうるはしくとのもなんどこのめどすぐるやすくもぐれば[illegible]

なつかしよ酒のあとは相業とぞ[illegible]

編泉

[illegible]

女の人よ酒のもの[illegible]

てさしおくべきもけぶりやまぢひちりもとくとく

らんらさあいとんでーくーくーて愛仲が酒入りて舌い

づくいつるやまよりてらよりて酒のちぐそりて大きよりしの

おりうんだおりくいまいしばらくまり女論張よ酒らぐちぐ

とうはもくーくーとの女の酒のまびしてまあーぬやーやあ

ふくくいまーめてあのものまぐるそようこちぐーぐいどのちひ

みたのーくふさあてうはのなぐさくうーとてうや